ミュリエル（1963）

MURIEL
MURIEL OU LE TEMPS D'UN RETOUR
MURIEL, IL TEMPO DI UN RITORNO
MURIEL, OR THE TIME OF RETURN

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス／イタリア
色彩 Color
時間 118分
初公開日 1974/02/23
公開情報 ＡＴＧ

【キャッチコピー】
昔の恋人との再会に　エレーヌは　何を求めたのだろうか…
鋭い生活の凝視から描き出された衝撃の名篇！

【解説】
　あの「去年マリエンバートで」に次ぐ、レネ６３年の作品（日本公開は１０年後の７４年）だが、観念的な所はなく、凝った作りではあるものの、いつもほどではない。骨董屋を営む未亡人エレーヌ（セイリグ）はカジノに通って孤独を癒すが、大戦後別れた初恋の相手アルフォンスに会いたくなり手紙を認める。やがて、既に初老の彼は情婦のフランソワーズを姪と偽って連れ、彼女のもとにやってくる。病気の妻を置いてフラリと。エレーヌにしても何とはなしに彼を呼んだので、別段、愛を復活させたいという強い意志はない。ただ、忘られぬ戦時中受けた心に傷が互いを引きつけているのだ。一方、彼女の養子ベルナール（Ｊ＝Ｂ・チェーレ）はアルジェ紛争で戦線にいた時、自分の過ちによって死に至らしめた娘（彼は“ミュリエル”と呼ぶ）の記憶にさいなまれていたが、現実に恋人もいる。エレーヌは相変わらずカジノ通いを続け、アルフォンスを探しにきた男の登場も彼らに何の変化ももたらさない。こうしてただ想い出に腐蝕されるだけのとりとめのない日常が続いてゆく……。非常に乾いた、というか醒めたレネの視点は相変わらずで、原作・脚本は「夜と霧」でテクストを書いたＪ・ケイヨール。戦争の落とした影への拘わりはレネと同じく彼のテーマでもある。Ｓ・ヴィエルニのカラー撮影に、前作のモノクロの精緻さとまた違った鮮烈な美しさがある。

【クレジット】

監督	アラン・レネ	Alain Resnais
原作	ジャン・ケイヨール	Jean Cayrol
脚本	ジャン・ケイヨール	Jean Cayrol
撮影	サッシャ・ヴィエルニ	Sacha Vierny
音楽	ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ	Hans Werner Henze
出演	デルフィーヌ・セイリグ	Delphine Seyrig
	ジャン＝バティスト・チェーレ	Jean-Baptiste Thierree
	ジャン＝ピエール・ケリアン	Jean-Pierre Kerien
	ニタ・クライン	Nita Klein
	クロード・サンヴァル	
	ローラン・バディ	
	ジャン・シャンピオン	
	ジャン・ダステ	Jean Daste

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.